

大学の図書館

第42巻第8号 (No.597)

2023 8



目次

言葉を見せる / 言葉に魅せられる「図書館」..... 和知 剛 ...107

【特集】地域グループのユニークな取り組み

北海道地域グループのありふれた取り組み 磯本 善男 ...108

東京地域グループのオンラインによるイベントについて 下山 朋幸 ...109

月並みだけど楽しい図書館見学—千葉地域グループの取り組み 加藤 晃一 ...111

京都地域グループのユニークな取り組み；

機関紙に「図書館に関する4コマ漫画」..... 水知 せり、安東 正玄 ...112

大阪地域グループおでかけ企画のご紹介 吉田 弥生 ...113

大学図書館員の自由で豊かな学びと交流—兵庫地域グループの場合— 井上 昌彦 ...114

会報・研究会を通じた地域交流活動 沖政 裕治 ...116

九州地域グループの活動について 金子 芙弥、平山 紀子 ...117

言葉を見せる / 言葉に魅せられる「図書館」

和知 剛

先日、福島県白河市での、ゼミの学生を伴っての所用が早く終わったついでに、栃木県那須塩原市に2020年9月に開館した那須塩原市図書館「みるる」を訪れた。白河から那須塩原（実のところ黒磯、と言ったほうがわたしにはしっくりくる。「みるる」もJR黒磯駅前だし）まで、ほぼ30～40分ほどの道程なので、昼食を食べたその場の勢い、という感じで出かけたわけである。

JR黒磯駅前という立地もあって、地域住民のみならず、栃木県内有数の観光地である那須地域を訪れる都会からの観光客も取り込みたい、当世流行の「滞在型図書館」を目指した施設のように、全体的におしゃれな雰囲気を醸し出している。ホールにギャラリーにカフェも併設されている。カフェが地元企業の出店なのは得点が高い。

公共図書館ではあるが、アクティブラーニングスペースにサイレントラーニングスペースもあり、珍しいことに階段が滞在スペースとして活用されている箇所もあり、これらは滞在型図書館としての機能を目指しているのだろう。ラーニングスペースで勉強していた利用者もちらほらおり、大学

図書館っぽい雰囲気もそこかしこに感じられた。

1階も2階も書架の配置が風変わりである。目を引いたのは、1階の書架が面陳を併用した運用をしており、様々な企画展示に加えて、展示している書籍から引用した言葉を書架に大きく貼り出していることだった（図書館ではこれを「アフォーリズム」と呼んでいるようだ。インターネットに写真が幾つか掲載されているので気になる方はそちらをあたられたい）。書籍の紹介も兼ねて言葉そのものを見せる展示、というのは面白い。わたしも現在、勤務先で名言botのような業務を担当しているので、これはなかなか興味深いところであった。なおカフェのスペースも図書館の一部に組み込まれており、カフェに面した書架では雑誌が面陳されている。

さあ、この「言葉を見せる」アミューズメントパークのような図書館から、「言葉に魅せられる」若者が育ってくれるかどうか、地域の教養が豊郁と匂い立つようになっていくのか、楽しみな場所である。

那須塩原市図書館 みるる | 那須塩原市の図書館
<https://www.nasushiobara-library.jp/>
 図書館・公民館案内 / 那須塩原市図書館みるる /

(わち・つよし / 郡山女子大学短期大学部)

【特集】 地域グループのユニークな取り組み

今回の特集では、大学図書館研究会の基盤である地域グループに目を向けました。各地域グループは、それぞれの伝統やスタイルがあり、会員の声を反映させながらユニークな活動を行っています。この特集では、そんな各地域グループの様子を、ご覧頂ければと思います。

なお、大学図書館研究会では、複数の地域グループへの所属も可能です。

魅力を感じる地域グループがあれば、連絡を取ってみてはいかがでしょうか？

(編集担当：兵庫地域グループ)

北海道地域グループの ありふれた取り組み

磯本 善男

今回の特集記事は「地域グループのユニークな取り組み」ということで執筆依頼をいただきました。しかしながら、北海道地域グループは今の所、活発に活動しているとは言えず、「ユニーク」と言える取り組みも思いつきません。私がグループの長を務めておりますが、大変心苦しく思っています。そこで今回は、北海道地域グループの現在の取り組みと、今後の予定(願望)を紹介させていただきます。

1 会報編集

会報の特集記事の編集については、北海道地域グループも毎年担当させていただいています。どのグループもそうかと思いますが、グループ内でテーマの案や執筆者の候補を出し合い、例会やメールで検討を重ねていきます。当初設定していたテーマで執筆者を想定数集めることができず、テーマを再設定するという事もありました。

直近の5年間で北海道地域グループが担当した特集のテーマは以下のとおりです。

- ・2023年2月号：足跡をたどる
- ・2022年2月号：バーチャルで魅せる

- ・2021年2月号：在宅勤務、何してますか？
どうしてますか？
- ・2020年8月号：農業系・畜産系・獣医系図書館の魅力
- ・2019年8月号：平成を振り返る

こうして見ると、手前味噌ではありますが、なかなかバラエティに富んだ企画になっていると思います。テーマを決めてしまえば、執筆依頼から原稿の提出、校正作業までほぼ定型化できているので、スムーズに進めることができています。これまで刊行スケジュールから遅延したことはほぼありません。

2 例会

地域グループの例会については、新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)が拡大する以前は、大学の会議室等をお借りして対面でおこなっていました。COVID-19拡大後はオンラインでの開催となりました。私がCOVID-19拡大の時期に北海道を離れたこと、札幌以外の大学の方にも入会していただいたこともあり、Zoomを使って遠隔で例会が開催できるようになったことは、非常に助かりました。懇親会もオンラインでの開催になり、COVID-19以前と同じとは言えませんが、会員間の繋がりは維持することができたと思います。

ただ、例会の内容はもっと充実したものにしていかななくてはなりません。2018年2月に外部講師の方をお招きして特別例会¹⁾を開催しましたが、ここ数年は会報特集記事の検討、全国委員会の検討事項の議論等が中心で、特別例会のような活動はできていません。北海道地域グループに参加していただいている方々のためにも、魅力ある企画を増やしていきたいところです。会員各自が普段から取り組んでいる課題を発表できる場を設けることも必要と考えています。

3 今後

2021年に若くして逝去された、天使大学(当時)の河手太士さんの奥様から、北海道地域グループの活動のために過分なご寄附をいただきました。このご厚意をどのように活用するか、北海道地域グループで検討しておりますが、まだ具体化できていません。

COVID-19拡大以前に「ウポポイ見学ツアー」をやりたい、という意見がグループ内で挙がりました。ウポポイは北海道の白老町に2020年に開業した、国立アイヌ民族博物館、国立民族共生公園、慰霊施設等から構成される、アイヌ文化の復興・創造のための拠点です²⁾。まだ素案もできていない状態ではありますが、全国の会員の皆様が参加できるツアーとして、グループの垣根を越えた交流の場とすることができれば、河手さんのご遺志に沿えるのでは、と考えています。

他のグループと比べると目立った活動はできていませんが、何とか活動は継続できています。札幌医科大学(当時)の今野穂さん(故人)や多くの先輩方が燈し続けてきた北海道の灯を、新しい形で引き継いでいきたいと思えます。

注

1) 中筋 知恵. 北海道地域グループ特別例会「IFLAの活動と日本」について. 大学の

図書館. 2018, 37 (4), 51-54.

2) ウポポイ 民族共生象徴空間

<https://ainu-upopoy.jp/> (参照2023-06-25)

(いそもと・よしお/放送大学学園)

東京地域グループのオンラインによるイベントについて

下山 朋幸

2020年初頭に突如として日本を含む世界を新型コロナウイルス感染症が襲った、いわゆる「コロナ禍」とそれに伴う行動制限により、東京地域グループでも対面による例会などのイベントや運営委員会の開催を取りやめた。だが、そのような状況下でも地域グループの活動を止めないために、オンライン会議システム・Zoomを使用して活動を行うこととした。

以下に、活動内容を紹介する。

・オンライン情報交換会

会員の親睦を深めるための「オンライン交流会」を2020年9月より年2回程度開催している。

これまで行ったテーマには、「私の好きな本」「東京学芸大学デジタル書架ギャラリーについて」「全国大会参加報告」などがあり、テーマに沿った話題による情報交換や近況報告を行っている。基本的には大図研会員であれば東京地域グループ以外の会員でも参加可とし、毎回10数名～20名程度が参加している。

・関東地域グループ合同例会

毎年はじめに、関東の地域グループが合同で開催している例会である。2021年は千葉地域グループ・埼玉地域グループ(同年6月末を以って解散)、以降は千葉地域グループとの合同で開催している。

オンライン初の開催となった2021年の例会では、ドイツ・ケルン日本文化センター図書館（当時）の蓮沼龍子氏よりお話をいただいた。なお、当日の記録を『大学図書館研究会誌』第47号に掲載しているため¹⁾、参照されたい。

ここで特筆すべき点は、蓮沼氏はドイツからの現地参加、また参加者も関東だけでなく全国各地からの参加があったことである。その後の合同例会でも、東京地域グループの登壇者に加えて2022年の合同例会では県立長野図書館長の森いづみ氏、2023年の合同例会では富山大学の三角太郎氏・関西学院大学の井上昌彦氏がそれぞれ関東から離れた場所から登壇者として参加した。

どの回も、登壇者・参加者が場所に関係なくヴァーチャルに一堂に会することのできるオンラインの利点を活用した例会であった。

・ヴァーチャル見学会

2021年春も対面開催を避ける方向でイベントを検討していたが、大学図書館の見学会を希望する声もあった。そこで、オンラインでの見学会を企画した。

特にオンラインだからこそ普段は気軽に行けないところ、また見学（開催）時間が短くなることから複数の図書館の見学を組み合わせるといことになり、九州大学中央図書館（2016年一部運用開始、2018年グランドオープン）・神奈川大学みなとみらいキャンパス図書館（2021年開館）のヴァーチャル見学会を2021年6月に開催した。

この見学会では、大図研の活動をPRするため、非会員でも参加可能とした。その結果、約130名の申込があり、そのうち非会員が7割近くを占めた。また、会員でも東京地域グループに限らず全国各地からの参加があった。

その後、2021年12月には京都地域グループとの合同で、ヴァーチャル見学会第2弾として京都大学桂図書館（2020年4月開館）・東京大学総合図書館（2020年11月グランド

オープン）の見学会を行い、約120名（内非会員約半数）の申込があった。

どちらの見学会も、参加者を全国から募ったのみにとどまらず、1日で東西に離れた2つの図書館をほぼ同時に見学できる、オンラインの利点を最大限に活かしたイベントであった。

なお、前述の合同例会を含め、非会員でも参加可能なイベントの際には大図研への入会案内を行っている。実際にこれらのイベントを機に入会してくださる方がいて、嬉しい限りである。

・まとめ

東京地域グループでは、2022年から対面開催によるイベントを再開している。直近の例会（2023年6月11日開催）「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について（審議のまとめ）」を読んでみる会は対面にて開催し、対面だからこそよかったという参加者の声がある一方で、オンラインなら参加できたという意見もあった。

東京地域グループでは、対面では会えないのでオンラインでイベントを開催するのみならず、普段は行けない場所の紹介や、離れた場所にいる人たちの交流、1日では移動できない場所を同日で取り上げるなどの「オンラインならでは」のイベントを行ってきた。

今後の活動としては、従来のような対面形式の開催を徐々に復活させる一方で、上記のようなオンラインの長所を生かした例会を合わせて開催していきたい。

1) 蓮沼龍子.【報告】講演会：ドイツの日本専門図書館の取り組み-日独交流160周年に寄せて. 大学図書館研究会誌. 2022, 47, p. 43-46

(しもやま・ともゆき)

月並みだけど楽しい図書館見学 —千葉地域グループの取り組み

加藤 晃一

千葉地域グループが千葉支部として発足したのは1986年7月、早いもので間もなく40年を迎えようとしています。発足時の支部委員長は学究肌の松井博氏（当時は中央学院大学、後に産能大学に転じて第4代常任委員会委員長）でしたので、大学図書館情勢の学びなどの座学をメインにして大図研の研究集会にも取り組んでいましたが、支部会員の所属する大学図書館を会場として支部企画を組んでいくこともありました。当時の千葉県内の大学は11大学程度（プラス日本大学のキャンパス）で短大と合わせても20程度でした（現在は昭和末期から平成にかけての新設ラッシュや短大の4年制への移行もあり、大学だけで倍以上になっています）。

最初の見学会は千葉支部結成間もない1986年11月に開催された千葉工業大学芝園キャンパスの新図書館（現・新習志野図書館）での千葉支部結成記念公開講演会でした。芝園キャンパスが開設されたばかりで図書館も新設、松井氏が知人の方に無理を言ったのではないかと思われそうですが、新しい図書館でNCR新版（後の1987年版）をテーマとした例会で講演会・意見交換会と図書館見学をセットにしたイベントでした。広々とした図書館のフロアを会場に大勢の方々に参加していただきました。会員拡大にも寄与したと思います。

見学先をすべて挙げるには頁が足りませんので詳細は省きますが、会員がいる図書館としては、千葉大学（本館、亥鼻分館）、千葉商科大学、日本大学（生産工学部、理工学部船橋、薬学部）、麗澤大学、植草学園大学・短大、東京大学附属柏図書館、千葉科学大学、亀田医療大学などに加え、国立歴史民俗博物館や千葉県立中央博物館といった専門図書館も見学しています。見学では施設は言うに及

ばず各図書館の資料群（特に特殊資料や貴重資料）との出会い、運営面での創意・工夫について参加者間での経験交流、そして懇親会では仕事以外の情報交換なども行ってきました。思い返してみますと図書館システム黎明期には千葉商科大学や麗澤大学でCALISシステムを解説していただいたり、施設面では東京大学柏図書館の自動書庫のスケールに驚いたり¹⁾、日本大学理工学部船橋図書館前にある池に本を落としたら大変だなと思ったり（落ちた人はいるとか）、資料の独自性としては植草学園大学・短大の児童書の充実、国立歴史民俗博物館の遺跡関連の報告書（灰色文献）の収集の重要性についても記憶に残っています。図書館以外でも千葉科学大学に実習用として管理している救急車や消防車に驚いたりしました。

見学にあたっては受け入れてくださった会員の方が我々を楽しませてくれる配慮もあり、東京藝術大学では蓄音機によるSPレコードのコンサートを加えてくださったり、千葉科学大学では銚子沖でのサンセットクルーズを組み込んでいただいたり、亀田医療大学では大学図書館だけでなく併設の専門学校の図書室や関連病院の施設（病院の豪華な？霊安室に一同驚き）、千葉県立中央博物館では広々とした植物の標本室などを見せていただき、図書館見学だけに終わらない見学会もあれば、広い千葉県でするので宿泊込みの企画で盛り上がることもあります。

最近では図書館のリニューアルが多いこともあり、以前に見学した図書館を再訪することもあります。リニューアル後の千葉大学アカデミックリンクや東京藝術大学の見学では、既存の施設の改修や増築について説明を受けて新旧が融合した新しい時代の図書館を実感しています。

また私が県外異動を重ねていたこともあり、当時所属していた東北大学附属図書館の見学会も企画しました。この時は見学会というより仙台ツアーという感じで初日は東北大

学と仙台の街歩き、二日目は東日本大震災の震災遺構である荒浜小学校の見学、庄子隆弘氏が主宰する「海辺の図書館」²⁾に加え、仙台城跡（青葉城址）、仙台市博物館や東北大学総合学術博物館（自然史標本館）も見学して中身の濃い企画となりました。

もちろん会員拡大という目的も考慮して会員のいない大学の図書館見学も組み込んでいます。神田外語大学で国際色豊かなキャンパスに、そして成田山仏教図書館では歴史を重ねて蓄積された資料群に魅了されました。

最近では業務委託化が進み、思うように見学も企画しにくいかもしれませんが、リニューアルによって生まれ変わる大学図書館もあります。今後も見学会を企画し各図書館の魅力に触れるだけでなく、図書館員の交流の輪を広げていければ、と思うところです。

注

1. 東京大学附属図書館柏図書館バーチャルツアー「自動書庫（動画）」
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa/opencampus2020/tour/movie>
2. 海辺の図書館
<http://umibe.org/>

（かとう・こういち／千葉大学附属図書館）

京都地域グループのユニークな取り組み；機関紙に「図書館に関する4コマ漫画」

水知 せり／安東 正玄

京都地域グループの機関誌は情報提供・会員間での情報共有を目標としています。しかし、発行に必要なコンテンツ集めに苦労していること、機関紙が継続的に読まれる工夫が必要であることを考え、誰でも興味がわく「図書館に関する4コマ漫画」的なものが掲載できないかと考えました。京都地域グループで

は、2018年に「羊の図書館」こと水知せりさんに講演をお願いした経過や大学図書館に実際に勤務経験もあるとの事で、無理を承知に4コマ漫画掲載をお願いしたところ、快く承知していただき、2021年10月号から掲載をさせていただいています。それでは、「羊の図書館」こと水知せりさんご登場をお願いします！

（あんどぅ・せいげん／立命館大学）



水知です。素敵な機会をいただき、機関紙で図書館漫画を描かせていただいています。

図書館見学が好きで、大学図書館にも機会があれば伺わせていただいています。

歴史ある図書館から新しい図書館まで、見学など貴重な機会をいただき感謝しています。

今後のますますの発展をわくわくしながら応援しています！

(みずち・せり／漫画家)

大阪地域グループおでかけ企画のご紹介

吉田 弥生

大阪地域グループは30名程度の会員数で、現在は委員4名が中心となって運営を行っています。だいたい毎月1回のペースで委員会を開き、例会の企画などを中心に話し合っています。

例会はだいたい3か月に1度くらいのペースでの開催をめざしています。大阪地域グループはさまざまな規模や種別の大学や短大の図書館などに勤務するメンバーで構成されているため、できるだけ身近なテーマを取り上げるように心がけています。また、秋ごろの全国大会報告会（参加したメンバーから内容をシェアする会）は毎年恒例となっています。いずれの企画もコロナ禍を受けてオンライン形式で行うことも増え、全国各地からご参加いただけた会もありました。そのほか、京都・兵庫地域グループと共催の関西3地域グループ合同例会を持ち回りで開催しています。

今号では地域グループのユニークな取り組みということで、見学系企画を紹介します。例会の内容はブログ¹⁾でも発信していますので、よろしければぜひご覧ください。

ふだんは気軽に行ける京阪神を中心に見学

先を決めています。大学図書館が中心ですが、他館種も対象にしています。

訪問した先はどこも印象深い図書館ばかりでしたが、たとえば2018年12月に伺った近畿大学アカデミックシアターでは、図書館が従来採用してきた分類法に拠らないテーマ別の配架がなされているなど、大胆な取り組みがなされていて非常に刺激的でした。また、直近では2023年2月に箕面市立船場図書館・大阪大学附属図書館外国学図書館（一体化した運営がなされている）を見学、大学図書館員が持つ知識やノウハウを公共図書館の運営に活かせる可能性があるというお話が興味深かったです。ちなみに外国学図書館には2021年5月に現在の箕面市船場地区に移転する前、箕面市粟生間谷地区にあった当時にも大阪地域グループ(当時は大阪支部)でおじゃましていて、Twitter²⁾とグループのブログに移転前の様子が残されています。そのほかユニークな企画では、2016年10月の「道修町（どしょうまち）ミュージアムストリートと適塾見学」もあります。大阪の古くからの中心地で、江戸時代から続く「くすりのまち」と、幕末期に蘭方医学者・緒方洪庵が開いた適塾の建物（国史跡・重要文化財）とをぶらぶらおさんぽするという企画でした。どちらも個人で自由に見学できますが、図書館界の仲間たちと一緒に見学すると、展示のしかたなど図書館業務にひきつけて感想を言い合えるなど、また違った楽しみがあります。

また、京阪神を飛び出して、さらに足をのばすこともあります。2015年2月の「春を求めて和歌山へ：和歌山大学附属図書館渡部館長講演会、図書館見学と和歌山散策」、同年12月の「富山の寒ブリと図書館見学を楽しむ会」などです。また、京都、東海、広島と大阪の4地域グループ合同企画「今話題の岡山県の図書館・博物館見学ツアー」もありました。3企画とも、各県の国立大学の附属図書館はもちろん、富山では富山市立図書館本館（TOYAMA キラリ内）、岡山では岡山県

立図書館、瀬戸内市民図書館(「もみわ広場」)、備前長船刀剣博物館を訪問しました。途中のみの参加もOK、自由時間もあり、各地の美味も味わうことができ、旅行+学びの楽しい時間を過ごすことができます。

見学の際には概ね、見学先の図書館のスタッフの方をお願いして、解説つきで館内をご案内いただいています。その運営方法自体から学ばせていただけるのはもちろん、案内や解説のしかたにも、お手本にさせていただけることが多いと感じます。また、日ごろ忙しさに紛れてつい見失ってしまいがちな、自分が働く図書館が誰のためにあるのか・何をめざすのかという理念に立ち返りたいせつさを思い起こすきっかけを与えていただくこともしばしばです。ここには書ききれなかったものを含め、快く見学を受け入れてくださり、貴重な時間を割いてお話を聞かせてくださった図書館やその他施設の皆様に心から感謝申し上げます。また、これをお読みいただいている皆さま、次の機会にぜひお気軽にご参加ください。そして、次はどこへ行くのか…見学申し込みをさせていただいた際には、ぜひどうぞよろしく願いいたします。

(よしだ・やよい／大阪大学附属図書館)

(参考)

- 1) 「大図研大阪地域グループブログ」<https://dtkosaka.hatenablog.com/> (参照 2023-06-25)
- 2) 「大阪支部11月例会『秋の箕面へおでかけ』」<https://togetter.com/li/597969> (参照 2023-06-25)

大学図書館員の自由で豊かな学びと交流 —兵庫地域グループの場合—

井上 昌彦

「これ、例会でやってみたい！」—こういっ

た会員の要望が実現されなかったことがない、と言ったら、皆さんは驚くだろうか。

私たち兵庫地域グループの特長を挙げるなら、何と言っても、その活動が自由なことだろう。活動は例会の実施を中心としているが、役員が定期的に企画することはなく、すべて会員からの声にもとづいて開催される。

例会は年に4回程度ということにしているものの、会員の声次第だ。誰も声を出さなければ間が空くし、希望が出されれば連続開催も珍しくない。「職場でハゲタカジャーナルについて発表することになったので、すぐに情報交換したい！」という要望が出され、翌月に開催されたこともあった。

このように総会やメーリングリスト(ML)で希望が出ると意見交換が行われ、開催するかどうか判断される。少なくともこの20年ほどは、会員から要望が出された企画が、開催不可と判断されたことは一度もない。参加人数にも拘っていないので、ニッチなテーマであっても、開催することができる。

開催が決まれば、大抵の場合は、提案した人が幹事となる。幹事の呼びかけに応じ、他の会員がそれぞれやれる範囲で、「私は参加申込フォームを作る」、「僕は〇〇で周知をする」などと手を上げ、分担が決まる。役員でも準備に加わらないこともあれば、役員以外の会員でもスタッフになることもある。

このように、例会の開催も自由なら、誰が何を担当するかまで自由だ(悪く言えば、気ままに適当?)。こうした自由な空気は、私たちの一番の特長だ。

最近のユニークな活動と言えば、「有馬の部屋」だ。

会員の有馬良一氏の提案で始まったため、このように呼ばれる不定期交流会だ。氏が指定する日に、都合のいい人がオンラインで集まり、自由なコミュニケーションを取る場で

ある。

オンラインであること、最長1時間程度で終わること、日程調整もないこと、事前に出欠表明も要らないことから、非常に参加へのハードルは低い。気ままに集まり、気ままに語り合っただけで終わる、ある意味で最も兵庫地域グループらしいイベントである。

また、MLの使い方も、当グループではいたって自由である。基本的にタブーがなく、会員が自由に投稿している。例会に関する打ち合わせなども多いが、情報提供や私的なお誘いなどにも使われている。上記「有馬の部屋」も、MLで「こんなの、やってみたら参加する？」という同氏の発言から始まった。

役員による例会打ち合わせも、(役員だけでなく)会員全員が参加するML上で行われることが一般的だ。役員のMLも別にあるのだが、会員から「今どういった議論が役員でされているのか知りたいので、会員全員が参加するML上でやりとりをして欲しい」という声があり、現在の運用に至った。そのため一般の会員も、今グループでどのようなことが議論されているか、おおむね見えている(ただしプライバシーを取り扱う場合等、必要に応じて役員MLを使用)。

ところで、私は関西方面の大学図書館の動向に関するニュースを、月に数回程度、このMLに流している。このニュースは本来、私が同僚に向けて個人的に送っているもの(※1)だが、兵庫地域グループの参考になりそうなものは転送している。これもまた、思い立ったときに気ままに転送しているだけであるが。(笑)

最後に、当グループの自由な活動を象徴するものとして、かつて実施していたサポーター制度(※2)について、触れておきたい。兵庫地域グループの会員でないものの、勉強会などを企画開催したい人をサポーターとして迎え、例会の提案をしてもらったり、当日

スタッフとして動いてもらったりするものだ。

当時は、会員とサポーターが参加するMLも立ち上げられ、例会の企画・運営が活発に行われていた。Code4Lib JAPANを誘致しての関西3支部合同例会(当時)(※3)、神戸の古書店めぐり、トサケン(図書館サービス計画研究所)とのコラボイベントなど、サポーターも入って非常に多くの活動が行われた。

サポーターの力を借りることによって例会も非常に活発になり、それがさらに新規会員・サポーターの獲得につながっていた(サポーター活動を経て大学図書館研究会に入会するケースも何度もあった)。私的には、この当時は近年の兵庫地域グループが最も活発で元気があり最も熱量のあった黄金時代だったと感じている。

とは言え、この数年で長く務めたグループ長や全国委員の交替もあり、体制の変化があった。若手メンバーが中心となり、これから新たな黄金時代の幕開けになるのでは、と感じている。

以上、簡単ではあるが、兵庫地域グループの活動をお伝えした。当グループの自由な雰囲気をお伝えできていれば幸いである。

なお、兵庫地域グループでは、随時会員を募集している。自由だからこそ豊かな学びと交流がある兵庫地域グループにご関心のある方は、当研究会Webサイト(※4)をご覧の上、ご一報頂きたい。一緒に活動してください。仲間を、私たちは歓迎します!

(※1) 井上昌彦.“職場でニュース配信を始めてみた”. 空手家図書館員の奮戦記. 2017-11-06. <https://karatekalibrarian.blogspot.com/2017/11/blog-post.html>, (参照 2023-06-30)

(※2) 当時も会員とサポーターには一線を引いて明確に区分しており、非会員を会員と同様に扱っていたのではないことを記してお

く。

(※3) 井上昌彦. “【満員御礼！大盛会！】
ダイトケン関西合同例会 兼 Code4Lib JAPAN
ワークショップ！”. 空手家図書館員の奮戦
記 . 2011-04-02. [https://karatekalibrarian.
blogspot.com/2011/04/code4lib-japan.html](https://karatekalibrarian.blogspot.com/2011/04/code4lib-japan.html),
(参照 2023-06-30)

(※4) “各地域グループの概要”. 大学図書館
研究会公式 Web サイト . [https://www.
daitoken.com/branch/local_group.html#09](https://www.daitoken.com/branch/local_group.html#09),
(参照 2023-06-30)

(いのうえ・まさひこ／関西学院大学図書館)

会報・研究会を通じた地域交流活動

沖政 裕治

広島地域グループは、広島県を中心として
中四国地方の会員で活動する地方グループで
ある。それぞれ年3～4回程度の会報の発行
と研究会の開催を主体として地域の会員相互
の交流を行っている。国内では2020年春に
始まった新型コロナの感染拡大に伴い、当グ
ループも対面活動からオンラインでの活動が
中心となった。特色あると言えるほどの目
立った活動ではないが、今回はコロナ渦以降
の活動の変化を振り返りながら、当グループ
の活動を紹介したい。

【コロナ渦での研究会再開】

2020年4月に感染拡大に伴う緊急事態宣言
が出されたことにより、5月に計画していた
研究会（対面）は直前で中止となった。今後
の活動継続が危ぶまれたが、会員からオンラ
イン研究会の提案があり、7月には研究会を
再開することができた。当時は、テレワーク
のための環境も整っておらず、不慣れな会員
も多いことから有志の会員が作成した「Zoom
の使い方案内」を会報に掲載して、オンライ
ン研究会の参加促進を図った（Zoomを会員

が利用できる体制を迅速に整備いただいたの
は大変ありがたかった）。コロナ以前には研
究会後に必ず開催していた懇親会ができな
くなったのは残念だったが、会員相互の協力に
より活動を継続できたことは大変よかった。

【申込フォームとアンケートの活用】

研究会の申込には以前から Google フォ
ームを利用していたが、オンライン研究会と
なってからは申込時に研究会のテーマに関連
した簡単なアンケートを併せて実施してい
る。主な目的は 集計リストを研究会の配布
資料として代用するためで、研究会テーマに
そった各参加者の基本情報や質問事項など
を書いてもらうことで、当日のディスカッシ
ョンの補助資料を手間なく用意することが
できた。また、当日不参加の場合でもアン
ケートの回答は可能で、後日個人や機関が
特定できないよう修正した上で、結果を
会報に掲載して研究会に参加できなかった
会員間の情報共有にも活用している。

【研究会を通じたネットワーク構築】

研究会は、参加者による情報交換が中心
である。テーマにそって各参加者が自館の
状況や課題などを簡単に報告し、質疑応
答を挟みながらディスカッションを行っ
ている。研究会の参加者は少人数である
ことが多く、一つのテーマについてじっ
くりと議論することができるので、会
員相互のネットワーク構築の一助とな
っている。このネットワークを生かして
、業務などで何か困ったことがあった
ときに、他大学の会員に気軽に相談で
きるのは地域Gの強みである。また、
非会員の参加も歓迎しており、グル
ープ独自の賛助会員制度（年会費500
円で地域GのML参加、『会報ひろ
しま』の送付）も設けている。

【もう一つの交流の場としての会報】

会報の発行は広島地域Gの中核となる活
動である。1979年8月の創刊から、何
度かの誌

名変遷を経て現在は『会報ひろしま』として発行されている。(最新号はNo.235。会報の詳細は次の記事を参照。楫幸子、『会報ひろしま』の記録と現在(特集 Voice from DTK Members at New Year)。大学の図書館。2018, Vol.37, No.1, p.5-6) 現在の編集体制は編集長1名と編集委員4名の計5名で構成されている。内容としては、研究会の開催案内、研究会テーマに関連した記事、前回研究会メモ、リレーエッセイなどである。

コロナ禍以降の新たな試みとして、編集委員の発案で「今月のひとこと」(長文でも可)を募集する「投稿フォーム」が開設された。編集委員から出された「お題」への「ひとこと」募集の案内を会報で行い、次号の「今月のひとこと」欄に会員からの声が掲載される流れである。「オススメの本」、「これ、どうしていますか?」など気軽な話題が中心で、新たな情報交換の場となっている。

【おわりに】

近年はグループを運営する役員や研究会参加者の固定化が課題となっているが、うれしいことに数人の新入会員を迎えることができた。小さな活動ではあるが、会報と研究会の両輪で今後も地域の交流促進となるよう活動していきたい。

(おきまさ・ひろはる／広島大学図書館)

九州地域グループの活動について

金子 美弥、平山 紀子

1. はじめに

九州地域グループの活動は、地域グループ独自のメーリングリスト(以下ML)と定期的で開催される例会を中心に展開されています。例会は、現在ではオンラインが中心となっていますが、コロナ禍以前には九州各地で、ワークショップや施設の見学会等さまざまな

企画が開催されてきました。テーマに関心があれば、会員以外でもオブザーバーとして例会に参加が出来、希望があればMLの登録も可能で例会の案内やML上の情報交換にも参加できます。地域グループ独自のMLは、全国の会員用のMLで聞くのは敷居が高く感じられるような日頃のちょっとした業務の困りごとや、他館の状況を知りたい時に気軽に相談できる大切なコミュニティとなっています。

本稿では、例会を中心に九州地域グループの活動を紹介したいと思います。

2. 九州地域グループの5つのポリシー

九州地域グループは、前身の福岡支部時代から掲げてきた5つのポリシーを引継ぎ活動を続けています。

- 一、自分を高める
- 一、知らないことを知る
- 一、知っていることを教える
- 一、他の図書館の事例を参考とする
- 一、問題解決のチャンスとする

コロナ禍以前は、例会の会場は会員の所属館の会議室等を無料で提供いただくことが多く、テーマに沿った事例発表や話題提供は、会員の発表を中心に運営できていたこともあり、例会開催のための経費が安価で済んでいました。それに加え、過去の全国大会を福岡で開催した際の収益の恩恵が未だに続いていることもあり、地区会費を徴収することなく活動を続けられています。非会員の方がオブザーバーで参加する時もワンコイン(100円)のみを徴収し、会に興味のある方が気軽に参加しやすい体制となっています。運営費にゆとりがあるおかげで、コロナ禍で対面開催が難しくなってからは、九州地域グループでZoomを契約しオンラインで例会や役員会などを開催しています。単独で契約しているので、本部や他の地域グループとの調整が必要なく、当地域グループの会員の参加しやすい日程を選び開催できる点は、大きな利点と感じています。

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax : (044) 989-2250 E-mail : shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座 : 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-15 浜松町ダイヤビル2F

E-mail : dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00190-2-79769 大学図書館研究会

3. 例会の企画について

例会は、役員の企画サポーターを中心に企画しています。年度初めにどのような例会を行っていくか意見を出し合い、大まかにスケジュールングをしています。テーマ決めは、例会のアンケート等から会員の意見を聞いて発表者を探せそうな話題にて行っています。例会はテーマに沿った事例発表を行い、質疑応答や意見交換を行う形式が多いですが、コロナ禍以前は金剛株式会社での工場見学、映画『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』の鑑賞会、新図書館見学ツアー等、自ら体験する例会を開催することもありました。

最近では、テーマや発表者を決めずに、ざっくりばらんに参加者が意見交換を行うオンライン例会を月に1回開催しています。例会のテーマや発表者を探すのは大変であり、例会の開催頻度が空きがちになるため、毎月第4土曜の15時から17時に固定し、役員や企画サポーターの誰かが参加可能であれば開催をしています。役員や企画サポーターが参加するのは、Zoomの管理のためです。参加者が現在の業務で気になっていることであったり、図書館界で話題になっていることの感想を述べたり、自由に意見交換を行います。企画サポーターの負担を減らしながら、手軽に会員間のコミュニケーションを取ることを狙って始めましたが、終了後に簡単に役員のミーティングもできるので役員の連絡の場としても効果がありました。

4. 今後の例会の開催形式について

最近ではZoomによるオンライン例会が続いていますが、6月には久しぶりに対面の会を開催しました。まだ会員の所属館も外部の使用に対して慎重な時期なので、博多駅に近い有料の貸会議室を借用しました。オンラインであれば躊躇してしまうようなちょっとしたことが聞きやすい点等対面の良さを再認識する会となりました。

とはいえ、オンライン開催の気軽さも捨てがたいという点も話題になりました。特に九州各地に会員が点在していることもあり、集合型の場合、どこを会場にすると集まりやすいのかということも毎回の悩みどころでもあります。遠隔地からの参加者は交通費の個人負担が発生するため、今後は、オンライン開催も継続しつつ、集合型も開催していきたいと思っています。

(かねこ・ふみ/九州大学附属図書館、
ひらやま・のりこ/久留米大学医学図書館)